

海外ボランティアが 中村副知事 を 表敬訪問 しました！

令和8年2月20日(金)、独立行政法人国際協力機構(JICA)の海外協力隊として活動後帰国された万久弘子(ばんきゅうひろこ)さん、兼上泰行(かねがみやすゆき)さん、山田進一郎(やまだしんいちろう)さんの3名が、中村副知事を表敬しました。

● 帰 国 隊 員 ●



万久さんは、令和6年1月から令和8年1月までの2年間、日系社会海外協力隊としてブラジルに派遣されていました。アラサツーバ日本語普及センターで、日本語教師を務められました。日本語の授業はもとより、子どもとあやとりをしたり、だるまさんがころんだをしたりと日本の遊びを一緒にしたり、茶道や書道などの日本文化を紹介したりしました。あやとりでピカチュウを作ったことも。

現地の夏は暑く蚊も多いので、日本から送られてきた防虫スプレーが大変役にたったそうです。



兼上さんはシニア海外協力隊として、令和6年1月から令和8年1月まで2年間、エクアドルに派遣されました。

日本では教師だった兼上さん、定年退職後に海外協力隊に参加することを決意し、障害児・者支援という職種で、現地で障害児・者支援、医療支援などを行っているティエラヌエバ財団に配属されました。そこでは、成人の障害者支援を担当されたとのこと。

ハンデがある方の日常生活訓練が主目的ですが、その他にもラジオ体操や折り紙を教えたり、ちらしずしなどの日本食の紹介もしたそうです。一方、兼上さん自身もエクアドルの手話を教わり、現場の方々と交流を深めたそうです。

身寄りのない方が多かったそうですが、その人たちに「あなたは家族」と言ってもらえ、お別れの時は泣いてくれたのが思い出深いそうです。

山田さんは令和6年1月から令和8年1月までの2年間、シニア海外協力隊としてコロンビアに派遣されました。国立職業訓練庁カルダス地域局に配属され、数学教育を担当し、生徒への授業・ワークショップに加えて現地の教員への指導・助言も行いました。

山田さんは2018年にもコロンビアで活動していましたが、コロナ渦のため帰国せざるをえませんでした。再び同じ職場への配属で「数学を好きになるように、クイズやゲームも取り入れたワークショップを行った。少しでも芽が出て広がってくれば」と話されていました。



中村副知事は「皆さんの活動は、現地に大きなインパクトを与えたと思います。ご無事で福井に帰られて何よりです。2年間、ありがとうございました。これからもボランティア活動に関わっていきたいとのこと、頑張ってください。」との言葉をかけられました。



左から JICA北陸センター折田所長、山田さん、中村副知事、兼上さん、万久さん

皆さん熱を込めて現地でのことをお話しされました。

